

水の大切さを知った私にできること

志學館中等部 一年

高崎^{たかさき}

莉奈^{りな}

「あっ！水が出ているよ！」

今年の冬のことだった。小学校の水道が、寒さで凍結してしまい、水が出たり出なかったりするような状況だったのである。これまでに水道の凍結を経験したことはなかった。私の住んでいる所は、凍結が起こるような寒い地域ではないからだ。だから水道の凍結の対策もほとんどされていなかったであろう。コロナ禍なのに手洗い・うがいはできなくなり、トイレは流れない、そんな状況だった。そんな中で水が出たときの喜びは今でもはっきりと覚えている。水道の蛇口をひねったら水が出てくるって当たり前のように当たり前ではないのだなと思うきっかけにもなった経験だった。

そもそも、もし水がなかったらどうなるのだろう？ 私たちは生きることができない。生活の観点で考えてみると、洗濯・お風呂・食

事などといったことは全てできなくなる。つまり、仮に私たちが水を飲まずに生きていけるとしても、生活が成り立たないため、結局水なしに暮らすことは不可能ということだ。それは、人間に限ったことではない。動物も植物も、みんな水を必要としているのだ。

前々から、水は大切なものなのだ。何となくは思っていた。しかし、水道から水が出て喜んだことはなかったし、もし水がなくなったら？と考えたこともなかった。だが、今年の冬の出来事で、水は私たちの生活に欠かせない、非常に大切なものなのだという実感が湧いた。

その後、小学校の授業で水の問題について調べる機会があった。外国では、十分な水がない国も多くある。あるところでは、どんなに汚れていても生きるために泥水を飲んでいそう。そのせいで、おなかを壊してしま。うことも多々あるという。また、水が飲めな。いために亡くなる方もたくさんいるそう。

生活用水が不足している地域も多い。

水は飲むこと以外にも多くのことに使うから、不足している場所があることは大きな問題だ。水不足に苦しんでいる人々を助けたいと思っても、その人々が安心して水を使えるようにするのは簡単なことではない。だが、諦めるのではなくて、小さな節約を実行することが大切だと思う。例えば、お風呂のシャワーはこまめに開け閉めする、湯船の残り湯は洗濯などに利用する、といったことだ。ほとんど変わらないようなことでも、続けることでかなり節水になることは、他にもたくさんあるはずだ。

昨年水道が凍結したことで、世界の水の問題について調べたことを通して、改めて水の大切さを知ることができた。だから、これから蛇口をひねればいつでも水が出るという思い込みは捨て、幸せなことなのだと思うようにしたい。それだけではなく、節水を心掛けてほんの少しでも水不足の解消に貢献できれ

ばいいなと思う。私はもちろん、みんなが節水をすれば更に大きく貢献できるだろう。そのため、まずは学校で節水を呼びかければよいのではないかと思う。例えば、手洗い場に具体的な節水方法を示したポスターを掲示する。「使わない時は蛇口を閉めよう」「歯磨きのうがいはコップでしよう」などといった内容だ。こうすれば、見た人が節水してくれる可能性は高まると思う。あるいは、「節水してくれてありがとう」と書けば、自主的に節水してくれる人が増えるのではないだろうか。このように、世界のために自分ができることを探して実行することが、問題解決につながっていくと思う。これから、自分に何ができるか考えていきたい。